

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人は記憶している分の十倍行動しているという話を聞いたことがある。逆に言うと九割は①忘れていくということであろう。

考えてみて欲しい。買い物に出かけて、もしも店内全品九割引の激安店があったなら、感覚的にそれはもうタダ同然だ。そう考えると記憶なんていうものは「ない」も同然なのかもしれない。

事実、②ぼくには小学校入学以前の記憶がほとんどない。当時、毎日いっしょに遊んでいた近所の子供たちの顔や名前はいっさい思い出せないし、住んでいた町の風景も、それどころか住んでいた自分の家の間取りすら思い出せない。とにかくその時期の記憶は、もはやほんのいくつかの砂つぶ程度しかないのだ。これでは記憶の九割引セールどころのさわぎではない。それこそ「ない」に限りなく近い。

ぼくはいつも考えていた。なぜこうも記憶が少ないのか。

ある日、ぼくは子供のころのアルバムを開いた。自分の写真が少ない。まちがえて兄のアルバムを開いてしまったのかとも思ったが、そうではない。おそらくぼくが次男だったせいで両親にも慣れがあつてのことだろう、単にとつていなかったのだ。それに加えてぼくは幼稚園もすぐに中退してしまった子だった。毎日、何もせず家でごろごろしている次男坊の行動にはことにイベント性が欠ける。いくら親でもぼくに対してカメラを「カマ」える気が起きないのも仕方がない。アルバムを見ると、兄の写真は「1」とついている」といった印象なのに対して、ぼくのはどこか「2」とついている」といった感じだった。

人間は忘れる生き物。それは当然だ。忘れたいことをいつまでも忘れることが出来なかったら、悲しい出来事がいつまでも悲しくて、とてもじゃないが生きていけない。忘れるというのは生きるための知恵なのだ。だから、何かを忘れないようにするには、忘れてしまう前に記憶の復習をする必要がある。まるで学校の勉強か何かのように。

人間は、ときどき古いアルバムを見たり、友達と昔話をしたり、思い出の品や音楽にふれたりしながら、消えゆく記憶をどうにか保っているのだろう。印象深い出来事はひんぱんに思い出すから、心の中で自然と※ショートカットが作成されて、そのデータは心の※デスクトップに置かれるようになるのだ。ぼくに幼少期の記憶が極端に少ないのは、③イベント性のない平たんな日々という事実に加えて、写真もろくに残しておらず、さらには小学校入学をもぎに遠くの町へ引っこしてしまったために生き証人となるはずの友達すらリセットされてしまった、そのせいではないかと思う。きつとぼくには、そのころの記憶の復習がまったく出来なかったのだ。それならなるほど④合点がいく。

でも、これは、逆に言えば記憶には落とし穴があるということだとも思う。残っているたった一割の行動の記憶にも、だれかによって※ねつ造された部分が存在する可能性がある気がするのだ。

例えばこうだ。父親が一枚の古い写真を指して「このときお前は海で泳ぎもしないでずっとヒトデを何百びきも採っていた」と言ったとする。そして、それをまるで覚えていない息子^{ひすこ}のほうは、何度もその話を聞かされるうちに、そういうことをしたんだと自然と思いこむ。ところが、実際にヒトデを採っていたのは親せきの子供で、父親はまちがえて記憶していた、としたらどうだろう。それでもすでに息子にはしていない行動の記憶が植えつけられてしまっている。自分じゃない自分の記憶が。

ぼくは絵をかくのが好きだから、絵かきになりたい。

わたしはおどりが好きだから、バレリーナになりたいです。

わたしはお花が好きだから、お花屋さんになりたいわ。

ぼくはヒトデが超好きだから、おおきくなったら動物博士になりたい。

子供のころに学校で、ことあるごとに将来何になりたいかをきかれた思い出がある。そして、その問いに「答えない」という選択肢はなかった。⑤「わからない」と言うのと、じゃあ好きなものは何かときかれ、サッカーと答えれば「リーガー」と書かされ、歌と答えれば「歌手」と書かされた。そういうことを何度も何度もきかれ、夢と題されて教室にはり出されたりするうちに、いつの間にか自分はリーガーになりたいんだとか、歌手になりたいんだか思いこみ始める。純真な心の中へ黒いかげがしのびこんでいくしゅん間だ。これは前述のヒトデの例とどこか似ている気がする。子供たちの本音はどこかへ消えてしまっているのだから。

そして歳をとるほどにその黒いかげの力は増していく。状況にせまられてリアルに高校を、大学を、職業を、決めねばならなくなる。そのたびに考えた将来をまたあらためて夢と名付けるはめにもなる。

よく「夢をあきらめない」とか「自分らしくいよう」という歌をきく。夢を追う、自分らしくいる、それはまあ何ともすばらしいことだとも思う。でも実は、そういう「夢」のほとんどは状況にやりこめられて無理やりに見つけたものではないですか？ という気がする。また、いわゆる「自分らしさ」というのも、「わずかに割程度の記憶を統合して創り上げた自分像」のことを指しているんだし、しかもそこには他人によってねつ造されてしまった行動の記憶さえふくんでいるのかもしれないだし……と、意地悪く思ってしまう。

だから一度くらいは、何かのタイミングで、みんながたいそう大事にしている「夢」や「自分らしさ」が、そもそも本当に「メイドイン自分（＝自分で作ったもの）」なのかどうか、考えてみてもよいのではないかと思う。もしかしたら、みんなが持つてくるからぼくも欲しい的な、たいした理由もない「夢」や「自分らしさ」ではないか？ と。もちろん、こればかりは考えたところで、どうなるものでもないのかもしれないが――。

だれもがいつしか大人になって、夢が本当になかった人と、かなわなかった人に分かれる。もちろん理由はそれぞれにあるだろう。でも、もしかしたら、かなった人は単にその夢が「メイドインA」だった、いくら努力してもかなわなかった人はその夢がただ「メイドインB」の偽モノだった、というだけのことなのかもしれない。

※ ショートカット・デスクトップ：共にコンピューター用語。この部分では「思い出しやすくなること」との比喩の一部として使われている。

ねつ造：事実でないことを事実のように作り上げること。

問1 ―― 線a bのカタカナを漢字に直しなさい。

問2 ―― 線①とありますが、「忘れること」は人間にとつてどのようなものだと思いますか。文中から十字以内で抜き出しなさい。

問3 ―― 線②について

(1) 「記憶がほとんどない」とありますが、「ほとんどない」を比喩的に表現しているところを文中から二十字以内で抜き出し、初めと終わりの三字を書きなさい。

(2) その理由を説明した次の文の空欄に文中の語句を十五字程度で抜き出して答えなさい。
小学校入学以前の□から。

- 問4 1 2 にあてはまることばの組み合わせとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。
- ア 1 あくせく ー 2 のんびり
イ 1 いちいち ー 2 ついでに
ウ 1 無理やり ー 2 仕方なく
エ 1 てきとうに ー 2 ていねいに
- 問5 線③を過ごすことになったのはなぜですか。解答らんに続くように十字以内で書きなさい。
- 問6 線④について
- (1) 「合点」のよみがなを書きなさい。
(2) 意味として最も適当なものを選び、記号で答えなさい。
- ア 証明 イ 説明 ウ 感心 エ 納得
- 問7 線⑤とありますが、この場合の「わからない」という答えを、筆者はどのようなものと言っていますか。文中から一語で抜き出さない。
- 問8 A B にあてはまる語を文中よりそれぞれ抜き出さない。
- 問9 本文を読んで子供たちが話し合っています。筆者の言いたいことを理解しているのはだれですか。記号で答えなさい。
- A 筆者が「考えたところで、どうなるものでもない」と言っているように、今ある自分の目標に向けて精いっぱい努力することが大切だと思うな。
B そうだね。努力の結果その夢がかなったのなら、それが本当に自分の夢だったと後になって気づけばいいんだよね。
C そうかな。自分の夢かどうかを確かめることはできなくても、立ち止まってふり返ることの大切さを筆者は述べているんじゃないかな。
D その通り。大人になる前にきちんと立ち止まることで今の「自分らしさ」が「夢」につながってゆくんだよ。

・ 3 ・

二 次の文章の語り手である「給前志音（しーちゃん）」は、吹奏楽部に所属する高校一年生。自分のことを「おれ」と言う。地区大会を前にした講習会で、幼なじみの「青山瑠璃」と再会する。これを読んで、後の問いに答えなさい。

どんどんジュースを買っていく土子先生を尻目に、どちらともなく食堂の前にある※ピオトープのふちまで移動した。日曜の今日は営業していないので、窓の向こうは暗く、静かだった。

がしゃこん。土子先生がまた一つジュースを買う。さつきより遠くなったその音は、どこか心地のいいひびきだった。

缶を開けることもなく両手で持つて、二人はピオトープに映る自分達の顔を見ていた。表情なんてたいてい見えない。けれどじつと見下ろしていた。フナだろうか、魚が一ぴき、ピオトープの底をほううに泳いでいく。

「金魚のふん」

ぼつりと、言葉がこぼれていった。

「え？」

「おれ、瑠璃ちゃんの金魚のふんだった。みんなもそう思ってたと思う。今も、そう思われてる」

瑠璃ちゃんが「そんなことないよ」という台詞を喉のおくで準備するのがわかったから、先回りして言う。

「本当、その通りだつて自分でも思う。それでも瑠璃ちゃんといっしょにいたの。瑠璃ちゃんといっしょにいないと、本当の本当に、一人になるつてよくわかってたから」

いやみを言われたり白い目で見られたり舌打ちをされたり、そんなことはちよくちよくあっても、物をとられたり暴力をふるわれるような目にあわず生きて来られたのは、確実に、瑠璃ちゃんの金魚のふんというポジションにいたからだ。そこから外れたらどうなるのか、ちゃんと理解していた。

「中学二年の二月に、初めてお父さんに会ったの」

瑠璃ちゃんが「お父さん？」と顔を上げて志音を見た。

①「昔ね、ドラムをやつてて。でもお母さんと離婚してからはいあんまりやらなくなつたんだつて。でも三年前、また始めたの」

聞いていいものなのかとまどつた様子で、瑠璃ちゃんが首をかしげる。ポニーテールが肩から落ちて、さらりとまう。

「おれが、毎日毎日つまらなそうだつて、どこかに行つたきり帰つてこなさそうだつて。それくらい、生きることに一生けん命じゃないつて、知つたから」

今ならよくわかる。だれかにがんばれと伝えるために、まず自分ががんばらないと考えた父の気持ち。ちが。

「がんばれつて、言われた」

娘に大志をいだけと言つたために、大志をいだけ自分にならなければと思つた父の気持ち。

「そのときは全然、お父さんの言葉がピンと来なかつただけだね、その後、瑠璃ちゃんといっしょにいると、②もやもやするようになつちやつて」

「もやもや？」

「そう。自分が何もとリエがなくて、全然一生けん命に生きてないつて、瑠璃ちゃんといっしょにいるとよくわかつちやうの。このままじゃ瑠璃ちゃんをきらいになつて、幼稚園からずっと友達でいてくれた子をきらい、ひどいやつになつちやうつて思つた」

・ 4 ・

だから、高等部には進まなかったの。そう言う、瑠璃ちゃんは **A**。
「でもね、一高に行って、吹奏楽を始めて、ちよつと変わったと思うんだ、おれ」

瑠璃ちゃんが **B**。
「中学のときより、ずつと変わったと思う」
うなづく。

「でも、瑠璃ちゃんは中学のときと同じように接してくるから、^③腹が立つちゃって」
もう一度謝罪の言葉を言った。「それはもうだいじょうぶ」と瑠璃ちゃんは **C**。

「瑠璃ちゃんというの安心した。めんどろなところとか、いやなこととか、全部さけて通れた。見たくないもの、見ないでいられた」

本当に、ありがとう。その言葉に続けて、大きく息を吸った。

「でも、おれと瑠璃ちゃんは絶対、^④いい友達同士じゃなかったと思う。全然、おたがいのためになる付き合いができてなかった」

^⑤自然と手に力がこもる。カルピスソーダの缶がほんのすこしへこんだ。

『「しーちゃんがいつもお世話になってます」って保護者みたいに言われるのとか、どうしたのどうしたの？　つていちいち心配されるのとか、ものすごくむかつく。お前はだれかに助けてもらわないと何にもできないんだって言われてるみたいで、腹が立つ」

おこりもせず、瑠璃ちゃんはやさしい表情で笑って見せた。口角をほんのちよつとだけつり上げる、小さな笑いだった。

「先生に、志音ちゃんが独りぼっちでかわいそうだから、仲間に入れてあげなさいって言われたの」

いつのこと？　なんて聞かなくても、幼稚園のときのことだとわかる。

「志音ちゃんはいつも一人で遊んでて、お友達がなくてかわいそうでしょ？　つて。瑠璃ちゃんなら、志音ちゃんと仲良くしてあげられるでしょ？　つて。先生にたよられてるのがうれしくて、張り切っちゃったんだよね」

もしかしたら私の中で、しーちゃんはずつと一人で砂遊びをしてる幼稚園児のままだったのかも。そう続けた。

ふと、この前瑠璃ちゃんから来たメールの内容を思い出した。

「瑠璃ちゃん、今年は装飾班に入っただんだね」

文化祭と付け足すと、苦笑いされた。こんなときに話すことじゃないと思ったのだけれど、どうしてだか、考えるより先に口が動いていた。

「うん。断り切れなくて」

「いいの？　会計班、楽しそうにやってたのに」

「最悪」

肩をすくめ、瑠璃ちゃんが **D**。

「人が多いからその分もめことも多いし、みんな自分が自分が、つて人ばかりで。毎日いやになっちゃう」

自嘲気味に笑った瑠璃ちゃんは、手に持ったカルピスソーダの缶を見下ろした。

「これ、ありがとう。いただきますって、先生にも伝えて」

力なく、踵を返した瑠璃ちゃんは、ビオトープに沿って本館棟の方へ向かう。追いはしない。もう一生顔を合わせることも口をきくこともないかもしれない。

「瑠璃ちゃん」

だから最後に、彼女の名前を呼んだ。ふり返った瑠璃ちゃんは「なあに？」とくすれ落ちそうな笑顔で首をかしげてみせる。ポニーテールがゆれる。青いビーズの髪どめが光る。

「あのとき、仲間に入れてくれてありがとう」

当時言うべきだったことを伝える。これでやつと、終われるんだと思った。

「東日本大会に、行くの」

視界がうるんで、もう瑠璃ちゃんの表情は見えなかった。

「今のおれの目標」

かすかに、瑠璃ちゃんがうなづくのがわかった。その姿が本館棟の正面玄関に消えて、両方の目尻からすーつと涙があふれた。ほおを伝って、あごから地面へ落ちていった。

カルピスソーダの缶を開け、^⑥一気に飲み干した。冷たい炭酸は喉ではじけて痛いくらいだった。でも飲んだ。一気に全て、自分の中に流しこんだ。

※ ビオトープ：水そう

踵を返す：ひき返す

問1 — 線①とありますが、「お父さん」がドラマを再開したのはなぜですか。文中の言葉を使って説明しなさい。

問2 — 線②とありますが、どのような気持ちですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分が瑠璃ちゃんをうらんでしまう理由は、幼稚園の時から続いた友情のせいだとごまかそうとする気持ち。

イ 自分と仲良くしてくれる瑠璃ちゃんといっしょにいればいいほど、自分の情けなさを強く感じるという気持ち。

ウ 自分が一生けん命になれない理由を、瑠璃ちゃんといっしょにいればいいほど強く感じてしまうという気持ち。

エ 自分で自分を許せない気持ちの原因が瑠璃ちゃんであることを、かくそうとしてもかくし切れそうにない気持ち。

問3 — **A**　　**D**　　にあてはまる最も適当なものをそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。ただし同じ記号を使ってはけません。

ア うな垂れた

イ 首を左右にふる

ウ 重々しいため息をつく

エ 何も言わずにうなづく

問4 — 線③の理由として適当でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の母親のような口ぶりで話すから。

イ ささいなことにも口出ししてくるから。

ウ 先生に言われて付き合ってくれているから。

エ 一人では何もできないと思っているようだから。

問5 線④とありますが、それを説明した次の文の 1 3 に当てはまることばを答えなさい。ただし、 1 2 は本文からそれぞれ五字以内で抜き出し、 3 は漢字二字で答えなさい。

志音は、瑠璃ちゃんのことを 1、志音自身をその 2 と表現していることからわかるように、二人の関係は、精神的な 3 につながるものではなかったということ。

問6 線⑤とありますが、どんな気持ちの表れですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分に対する瑠璃ちゃんのこれまでの態度へのいかり

イ 自分の思いを瑠璃ちゃんに告白することへのきん張感

ウ 瑠璃ちゃんと話せるチャンスは二度とないというあせり

エ 瑠璃ちゃんが気を悪くせず聞いてくれるかという不安感

問7 線⑥とありますが、この時の志音の気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 瑠璃ちゃんに話した内容はつらさをとまなうものだったが、これからの自分にとって大切なことだから受け入れようとしている。

イ 瑠璃ちゃんにこれまで心のためにいた思いを告白し、ほっとしたので次の目標に向かってがんばろうと気持ちを新たにしている。

ウ 瑠璃ちゃんを非難するようなひどい言葉を言ってしまったという後ろめたさで、この場から少しでも早くのがれようとしている。

エ 瑠璃ちゃんと話したことで過去の自分を思い出し、彼女がいないと何もできなかった自分に戻りそうなのを振り切ろうとしている。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ジャングルの王者ターザンといえば、ワイズミユラーの映画があまりにも有名です。おそろくみなさんにも、あの「アッアア。」とおたけびをあげてあらわれる筋肉質のヒーローのイメージがあると思うのですが、原作を「ぞんじでしようか。」

エドガー・ライス・バロウズの『類猿人ターザン』

私が、この本を読んだのは中学生のときでした。

あのころは、よく「筋骨たくましい戦士」の漫画をかいていました。

授業中、ノートのはしつこに、そんな絵をかいていると、

「おつ、ウエハシ。今日は斧を持ってる男か。」

先生にツッコまれたものです。「そういう人が好きだった。」というより「そういう強くてカッコイイ人になりたいなあ。」と思っていたんですね。

だからターザンにはあこがれました。元オリンピックの水泳選手だった映画版のワイズミユラーも好きですが、^①原作はさらにすばらしかったです。

イギリス貴族の両親は、アフリカ沖で遭難して、流れついた浜辺で赤ちゃんだけは無事生まれるのだけれど、ふたりとも死んでしまいます。のこされたその子が、ターザンです。

ターザンは類人猿に育てられたので、さしいしは自分のことを人間だと思っていないし、浜辺の小屋で白骨化した両親を見つけても、それが自分の親とは思わないんですね。原作の第一章はターザンが「自分がだれか」をわかっていくまでの、学びの物語です。

ターザンは、その小屋でナイフを見つけているのですが、人間だからそれをうまく使うことができるし、それまでひ弱な生き物だと思われていたのが、そのことでまわりの動物たちにも認められるようになっていきます。言語にも興味を持って、ひとつひとつ、学んでいくうちに、やがて自分がイギリス貴族のグレイストーク卿ジョン・クレイトンであることを知って、イギリスにわたることになります。

そこは、彼が育った大自然とはまったく異なる、文明化された社会です。

つまり『類猿人ターザン』は、自然とともにある人間が、自然を破壊する文明というものに反旗をひるがえす物語で、中学生の私は、まさにそこに共感したのです。

英国貴族の血をひきながら、野生児として育ったターザンは、人間でありながら、自然の代弁者でした。あのころ、私は、自分もそうありたいと強く願っていました。

いまの時代は環境問題やエコに関心が高まっていますが、私が十代のころは、ちょうど高度経済成長期によって失われたものへの反省がはじまった時代でした。

テレビでも、文明が自然をこわすことに警鐘を鳴らす番組がしょっちゅう放送されていたし、「戦争」と「公害」がこの世界の二大悪として、^Aとけいげられていたのです。

学校でも、先生がこんな話をしてくださったのを覚えています。

「いいか。牛の群れを思いうかべてみる。君は、先頭を走る牛だとする。前を見ると、あつ、ガケがある。君は後ろを向いて『ガケがあるぞ。』と警告して、立ちどまろうとする。前にいる牛たちも、気がついて止まろうとするだろう。でも後ろにいる牛たちは、見えていないから、そのままどんどん、どんどん押してきて、結局、牛たちの群れは、止まることができずにガケから落ちていくんだ。」

私の脳裏には、^②なすすべもなく、ガケから一頭、また一頭と転がり落ちていく牛たちの姿が、まぎ

まざと浮かんでいました。

③ その寓話(よづか)が意味していたのは、たとえ科学者たちがさまざまな危険に気づいて警鐘を鳴らしたとしても、間にあわない場合があるということです。

B、危険を事前にサツチして止めなければいけない。

C、人間って、自分の目で見てから、それが起こってからでないと、それがどんなに危険だと言われても、※リアリティを持ってやめる気にならないんですね。事前の想定だけでは、腰(こし)をあげないというのがおそろしい。

D、ひとりひとりは、なにかをしようという気になるかもしれませんが。

けれど、ひとりがそれを止めようとしても、集団になってしまったら、なぜ止まらなければいけないのかも理解できないまま、あの牛の群れのようにガケのむこうにつきつぎと転げ落ちていくことしかできないんじゃないか。

それはじつに生々しい恐怖(きょうふ)でした。

ひとりの人間が考えることと、群れとしての人類が引きおこすことは、必ずしも一致(いち)しない。

戦争や公害、あるいは原発の問題を例にひくまでもなく、人類の歴史は、そうしたことをくりかえしてきたのです。

④「まるでひとつの毛糸玉(けいとう)みたいだね。」

友達とそんな話をしたのを覚えています。だれかがはしっこをひっぱったら、やがてだれもが影響(えんきよう)を受けずにはいられない。だとしたら、どんな人も「自分には関係ない。」とは言えない。そう思いました。

当時の私は、かつてはほかの動物たちと同じように、野にある生き物だった人間というものが、いったいつからそれとはかけはなれた道を歩みはじめたのかというところに強い関心がありました。人間は、いつしか群れとなって社会をつくり、文明の中で暮らすことを選んだのです。

ターザンにひかれたのも、ターザンが、自然と文明、そのふたつの境界線の上に立っていたからだと思えます。

私も自然の代弁者になりたいと願いながら、実際には文明の恩恵(おんけい)を受けて暮らしていました。

自然を守ろう、環境破壊はいけないことだというのはかんとんで、まったく正しいことのように思えますが、電気を使い、文明がもたらす便利さに助けられているのは、ほかならぬ自分たちであることも、見のがすわけにはいきません。

境界線の上に立つ、というのは、たとえば、そういうことです。

どちらか一方が正しいと信じこんで、うたがいない人間は、もう一方を、理解しがたい他者として非難して取りのぞこうとするかもしれない。⑤理想をかかげて声高(こゑたか)に自分の主張をする人間は、しばしば、そういう己(おのれ)のおごりに気づかないものです。

のぼせやすく、そのことで失敗ばかりしていた私は、自分が、そういう人間になってしまうことをなによりもおそれました。

自分は正しい。そう強く思うときほど、注意深(ちゅういふか)くなる。物事は、深く考えれば考えるほど、どちらも

境界線の上に立っている人は、私に、そのことを教えてくれました。両側が見えるからこそ、どちらにも行けない悲しみがあるのです。

バルトス・ヘップナーの『コサック軍 シベリアをゆく』を読んだのは、高校生のときでした。

コサック軍によるシベリア征服(せいふく)をえがいた歴史物語で、コサックの首領エルマークがタタール軍と戦う日々をえがいています。

コサックは、ロシアの少数民族です。エルマークは、それまでコサックたちをヒキイ、辺境(へんきやう)を生きるすべとして略奪(りやくだつ)をくりかえしていたのですが、シベリア遠征(えんせい)を命じられたことで、この戦いに勝てば、ロシア皇帝(こうてい)に自分たちのことを認めてもらえるんじゃないかという気持ちで、メバ(めば)えます。

つまり、これは戦争をえがきながらも、支配される側の※マイノリティと支配する側の※マジョリティの関係をえがいた物語でもあるのです。

エルマークは、皇帝からもらった鎧(よろい)を身に着けていたがために水の底にずんずんで死んでしまいます。その最期(さいご)は、少数民族の首領としてコサックとロシアのあいだで葛藤(かつとう)した彼の人生を象徴(しょうてい)的に表していました。

しかも、この『コサック軍 シベリアをゆく』には続編があつて『急げ 草原の王のもとへ』では、シベリア征服を、反対のタタール軍の側から書いています。

同じ戦争を、ロシア側とタタール側、両方からえがいているので、エルマークも、一方では英雄(えいゆう)だと思われているけれど、もう一方では悪魔(あくま)だといわれています。敵と味方が引っくりかえるわけだから、それぞれの正義も、まったくちがいます。

歴史というものの⑥相対性(さうたいせい)を、同じ作家が、表裏(ひょうり)一体のふたつの物語としてえがきわけていることにワクワクさせられました。

どちらか一方の側から見ただけでは、見えない景色があるのです。

境界線の上に立つ人は、それを見ているのだと思います。

だからとても孤独(こどく)だし、人から理解してもらえないこともあると思います。⑦結論(けつろん)めいたことを言うこともできず、それでもじつと考えつづけ、沈黙(しんもく)しているかもしれない。

私は、そういう人にひかれるし、そういう人のまなざしが見ているものを、自分も見てみたいと思うのです。

※ リアリティ：現実感

マイノリティ：少数派

マジョリティ：多数派

問1 線abcのカタカナを漢字に直しなさい。

問2 線①とありますが、筆者がそう思った理由が述べられている一文を抜き出し、初めの五字を書きなさい。

問3 Aに入る語として、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

問4 線②の「すべ」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 知恵 イ 理由 ウ 目的 エ 手段

問5 — 線③とありますが、

(1) 「寓話」とはどのような意味ですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 動物などを主人公にして語られる、教訓などを織りこんだ物語。

イ 自分では経験できない身の上を、現実のように感じさせる物語。

ウ おそろしい話なので子供向けに、動物の話として言いかえた物語。

エ おろかなものを笑いものにして、子供にまねをさせないための物語。

(2) 「科学者」「間に合わない」はそれぞれ「先生の話」の中で何にたとえられていますか。解答らんにつづくように文中から抜き出しなさい。

問6

B

C

D

にあてはまる最も適当なものをそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

ア つまりは イ ですから ウ それでも

エ ところが オ たとえば カ だとしたら

問7

— 線④とありますが、この文の主語として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 文明 イ 地球 ウ 人間 エ 民族

問8

— 線⑤は本文ではどのような例で説明されていましたか。次の文の「」にあてはまるように文中からそれぞれ抜き出し、初めと終わりの三字を書きなさい。

【 1 】ということを主張しながら、【 2 】のを忘れていること。

問9

— 線⑥とありますが、「相対性」とはここではどのような意味ですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア だれが見ても同じようにとらえられる性質。

イ 語り手がとらえたものだけが正義になる性質。

ウ 見方によってとらえられるものが異なる性質。

エ 時間との関係でとらえられるものが変化する性質。

問10

— 線⑦とありますが、なぜそうなるのですか。その理由となる一文を抜き出し、初めの五字を書きなさい。

※

一問1

a

える

b

問2

問3 (1)

ゝ

(2)

問4

問5

から。

問6 (1)

(2)

問7

問8 A

B

問9

二問1

※

問2

問3 A

B

C

D

問4

問5 1

2

3

問6

問7

三問1

a

b

い

c

え

※

問5 (1)

(2)

科学者

間に合わない

こと。

問6 B

C

D

問7

問8 1

ゝ

2

ゝ

問9

問10

受験番号

名前